

古川澄明教授略歴・著作目録

略歴

1951(S26)年3月14日生まれ

1981年3月 神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期終了 [単位取得満期退学]

1981年4月 鹿児島経済大学経済学部講師

1982年7月 短期海外研修：ドイツ連邦共和国(1982年9月まで)

1984年11月 鹿児島経済大学経済学部助教授

1987年4月 山口大学助教授(経済学部)

1990年11月 ベルリン経済大学客員教授(1991年9月まで)

1991年2月 ベルリン自由大学客員教授(1992年10月まで)

1993年8月 山口大学教授(経済学部)

1996年3月 ベルリン自由大学客員教授(1996年9月まで)

2000年12月 エアランゲン・ニュルンベルク大学社会学研究所客員教授(2001年10月まで)

2007年4月 山口大学研究主体教員(2012年3月まで)

2016年3月 山口大学経済学部定年退職・山口大学名誉教授。

【主要担当科目】

共通教育 経営学入門

経済学部 経営史 西洋経営史 日本経営史

【所属学会】

日本経営学会 日本経営史学会 中四国商経学会 労務理論学会
企業家研究フォーラム

【社会活動等】

2010年7月1日～2012年6月30日，美祢市産業振興推進審議会・会長，美祢市長から委嘱。

2010年9月9日～2012年8月31日，「産官学ネットワークを活用した中長期戦略の検討委員会」：平成22年度地域新成長産業群創出事業「先進環境対応車技術集積の形成及び事業展開プロジェクト事業」委員，一般財団法人・ひろぎん経済研究所から委嘱。

2011年7月11日～2012年8月31日，「中国地域の自動車産業分野の中長期発展展望に関する検討会」（経済産業省中国経済産業局補助事業：平成23年度地域新成長産業群創出事業「先進環境対応車技術集積の形成及び事業展開プロジェクト事業」）委員，一般財団法人・ひろぎん経済研究所から委嘱。

2012年7月1日～2013年6月30日，美祢市産業振興推進審議会・会長，美祢市長から委嘱。

2012年9月3日～2013年8月31日，「医工連携・先進環境対応車にかかわる有識者会議」（経済産業省中国経済産業局補助事業：平成24年度地域新成長産業群創出事業「医工連携・先進環境対応車創出事業」）委員，一般財団法人・ひろぎん経済研究所から委嘱。

2014年7月1日～現在，美祢市産業振興推進審議会・会長，美祢市長から委嘱。

2016年2月4日～現在，美祢市生涯活躍のまち構想策定有識者会議委員

【学内委員等】

1994年度～1995年度 教務委員会副委員長（1994），同委員長（1995）

- 2002年度～2002年度 経営学科世話人 (2002)
2003年度～2004年度 学生委員会副委員長 (2003), 同委員長 (2004)
2006年度～2007年度 東研・図書委員会副委員長 (2006), 同委員長 (2007)
2007年度～2007年度 山口大学図書館運営委員会委員 (2007)
2010年度～2011年度 財務委員会副委員長 (2000), 同委員長 (2001)
2011年度～2012年度 就職支援委員会副委員長 (2011), 同委員長 (2012)

研究業績目録

【編著】

2000(平12). 06 環黄海国際学術調査グループ山口大学経済学部班, 山口大学東亜経済学会 古川澄明編『中国自動車・半導体産業調査—1999年10月現地調査報告書』『東亜経済研究』第59巻第1号(別冊号)として刊行。(報告書全体の編集)。

2008(平20). 05 Sumiaki Furukawa, Gert Schmidt (ed.): *The Changing Structure of the Automotive Industry and the Post-Lean Paradigm in Europe: Comparisons with Asian Business Practices*, Fukuoka: Kyushu University Press, 2008, xii, 275 p.; 24 cm, (著書全体の編集, Preface, Introduction, Part II-4: The Evolving Strategy of the European Automotive Company and the Post-Lean Paradigm: The Case of VW and a Brief Comparison with Toyota (in the Part II: New Strategy of Automotive Manufacturers and the Post-Lean Paradigm), Appendix (Sponsorship, JSPS-DFG Program Cooperation, Authors Publications List, Index) の各項執筆。

2015(平27) Building of International Cyber Cooperation between Archives Possessing Modern-East-Asian Historical Records. Report of

Kickoff Conference 2014, Sumiaki Furukawa (ed.) (ISBN 9784990825706), 237p., December 2015, Yamaguchi: Yamaguchi-University.

2015(平27) 『日欧自動車メーカーの「メガ・プラットフォーム戦略」とサプライチェーンの変容』(科学研究費基盤研究A・平成26年度研究成果内覧報告書, 非公開), 2015年3月, 896頁, 山口大学経済学部古川研究室12冊制作・研究メンバー配布, ①全体編集, 研究代表者(古川) 概括部分, 序, 補論。本書は, 科学研究費基盤研究A: 研究課題番号: 26245047, 研究期間:平成26年~28年間。平成26年度調査研究成果をまとめたものである。②古川澄明, 岩城富士大, 目代武史, 塩次喜代明, 居城克治, 折橋伸哉, 竹原 伸, 内田和博, 木村 弘, 平山智康, 立澤昌男, 古川澄明, 李 澤建, 太田志乃。

2015(平27) 『日欧自動車メーカーの「メガ・プラットフォーム戦略」とサプライチェーンの変容』(科学研究費基盤研究A・平成26年度研究報告書), ISBN 978-4-9908258-0-5, 2015年8月刊行, 山口大学経済学部古川研究室発行, ①全体編集, 研究代表者(古川) 概括部分, 序, 補論。本書は, 科学研究費基盤研究A: 研究課題番号: 26245047, 研究期間:平成26年~28年間。平成26年度調査研究成果をまとめたものである。②古川澄明, 岩城富士大, 目代武史, 塩次喜代明, 居城克治, 折橋伸哉, 竹原 伸, 内田和博, 木村 弘, 平山智康, 立澤昌男, 古川澄明, 李 澤建, 太田志乃。

【共著】

- 1981(昭56). 04 今井俊一編『現代企業管理論』(「西ドイツ企業経営の時間労働ノルマ管理」の項執筆) ミネルヴァ書房
- 1989(平01). 01 前川恭一編『欧米の企業経営』(「フォルクスワーゲン社の企業行動」の項執筆) ミネルヴァ書房
- 1993(平06). 07 『情報化社会における企業経営の変貌—情報化の進展と地

- 域産業の振興に関する学術的調査研究』（報告書全体の編集）
山口大学研究会
- 1999(平11). 05 井上昭一・藤井光男編『現代経営史—日本・欧米』（「独自
自動車工業と民営化政策」の項執筆） ミネルヴァ書房
- 2000(平12). 01 経営労働論研究会編『経営労働論の展開』（「スピード・ノ
ルマの経済的特質」の項執筆） 千倉書房
- 2000(平12). 01 奥林康司編『現代の企業システム—経営と労働』（「ドイツ
統一と民営化前史—『信託公社』誕生への遡源—」の項執
筆） 税務経理協会
- 2001(平13). 10 Markus A.Pabst, Christian Sandig und Gert Schmidt
(Hrsg.): *Arbeitszufriedenheit. Abschlußbericht zu einem
Seminar-Projekt in Zusammenarbeit mit der BU Dien-
stleistungen der Volkswagen AG (Standort Wolfsburg).*
Institut für Soziologie (IfS) und Sozialwissenschaftliches
Forschungszentrum (SFZ) der Friedrich-Alexander-Uni-
versität Erlangen-Nürnberg, Erlangen, Oktober 2001,
(Warum hat die Debatte über Arbeitszufriedenheit in
Japan nachgelassen ? - aus japanischer Sichtweise の項執
筆)
- 2005(平17). 10 山口大学経済学部経営学科編『経営学をやさしく学ぶ』
(「経営史」の項執筆) 中央経済社

【論文】

- 1977(昭 52) 修士論文『フォルクスワーゲン工場発展史論』（1977年3月）同
志社大学大学院商学研究科博士課程前期修了・取得，1977年3月。
- 1982(昭 57) 博士課程後期単位修得論文『資本主義企業における時間労働ノ
ルマに関する研究』（1981年3月），神戸大学大学院経営学研究
科博士課程後期単位取得満期退学 1981年3月。

- 1979(昭54). 07 「ヴォルクスヴァーゲンヴェルクの成立過程(1)」神戸大学大学院『六甲大集』27巻2号。
- 1981(昭56). 01 「ヴォルクスヴァーゲンヴェルクの成立過程(2. 完)」神戸大学大学院『六甲大論集』27巻4号。
- 1982(昭57). 01 「フォルクスヴァーゲンヴェルク生成の史的前提への接近」鹿兒島経済大学『鹿兒島経大論集』22巻4号。
- 1984(昭59). 10 「ナチ・レジーム初期におけるヒトラーの『ドイツ国民車』構想へのナチ政府の取組姿勢」鹿兒島経済大学『鹿兒島経大論集』25巻3号。
- 1985(昭60). 01 「ナチの『ドイツ国民車』事業に関する西ドイツ連邦文書館所蔵文書の検討—ベルリン商工会議所からヒトラーへの「国民車」事業の組織化原則の提案」鹿兒島経済大学『鹿兒島経大論集』25巻4号。
- 1985(昭60). 04 「ドイツ自動車産業界の『国民車プロジェクト』の発足(1)」鹿兒島経済大学『鹿兒島経大論集』26巻1号。
- 1985(昭60). 07 「ドイツ自動車産業界の『国民車プロジェクト』の展開Ⅰ(2)」鹿兒島経済大学『鹿兒島経大論集』26巻2号。
- 1985(昭60). 10 「ドイツ自動車産業界の『国民車プロジェクト』の展開Ⅱ(3)」鹿兒島経済大学『鹿兒島経大論集』26巻3号。
- 1986(昭61). 01 「ドイツ自動車産業界の『国民車プロジェクト』の展開Ⅲ(4)」鹿兒島経済大学『鹿兒島経大論集』26巻4号。
- 1986(昭61). 04 「ドイツ自動車産業界の『国民車プロジェクト』の展開Ⅳ(5)」鹿兒島経済大学『鹿兒島経大論集』27巻1号。
- 1986(昭61). 07 「ドイツ自動車産業界の『国民車プロジェクト』の挫折Ⅴ(6)」鹿兒島経済大学『鹿兒島経大論集』27巻2号。
- 1986(昭61). 10 「ドイツ自動車産業界の『国民車プロジェクト』の挫折Ⅵ(7・完了)」鹿兒島経済大学『鹿兒島経大論集』27巻3号。
- 1987(昭62). 04 「日本自動車工業における労働ノルマについての分析視点」

- 鹿児島経済大学『鹿児島経大論集』28巻1号, 1987年4月。
- 1989(平01). 11 「第2次世界大戦とフォルクスワーゲン社—経営政策の転換と軍需生産」山口大学『山口経済学雑誌』(山口大学) 38巻5・6号。
- 1990(平02). 07 「第2次世界大戦とフォルクスワーゲン社—強制労働の導入とその経営的動機」山口大学『山口経済学雑誌』(山口大学) 39巻1・2号。
- 1990(平02). 10 「第2次世界大戦とフォルクスワーゲン社—『強制労働』の管理・統制と労働・生活条件」山口大学『山口経済学雑誌』(山口大学) 39巻3・4号。
- 1993(平05). 01 「東部ドイツ国営企業の民営化—自動車産業分野を中心に」山口大学『山口経済学雑誌』(山口大学) 41巻1・2号。
- 1995(平05). 05 「東欧の産業革新と欧米自動車メーカーの進出」山口大学『山口経済学雑誌』43巻3・4号。
- 1997(平09). 04 「1995年度外国経営史(ドイツ)」日本経営史学会『経営史学』32巻1号。
- 1997(平09). 05 「ドイツ自動車産業の対中国戦略について—Volkswagenグループを事例として」山口大学『東亜経済研究』56巻2号。
- 1997(平09). 10 「論德国汽車企業的対花戦略」中国山東大学『文史哲』1997年増刊。
- 2001(平13). 03 「ドイツ統一と旧東独企業の民営化事業機関『信託公社』に関する歴史的研究—公社組織の編成を中心に」同志社大学『同志社商学』52巻4・5・6号。
- 2003(平15). 01 「フグ・ビジネスに関する調査記録—『下関唐戸魚市場株式会社』のインタビュー」山口大学『東亜経済研究』61巻4号。
- 2005(平17). 03 「欧州自動車産業の構造変化と日系自動車メーカーの欧州

- 戦略—マジヤールズズキ社のヒアリング調査概要」山口大学『山口経済学雑誌』53巻5号。
- 2005(平17). 01 「在欧州日系自動車メーカーの戦略—マジヤールズズキ社のヒアリング調査記録」山口大学『山口経済学雑誌』53巻6号。
- 2005(平17). 03 「在欧州日系自動車メーカーの戦略—マジヤールズズキ社のヒアリング調査記録：続編（1）」山口大学『山口経済学雑誌』54巻1号。
- 2003(平15). 06 「在欧州日系自動車メーカーの戦略—マジヤールズズキ社のヒアリング調査記録：続編（2）」山口大学『山口経済学雑誌』54巻2号。
- 2003(平15). 07 「自動車生産拠点の中欧へのシフトとドイツの立地条件の行方：自動車部品産業の事例」山口大学『山口経済学雑誌』54巻3号。
- 2007(平19). 03 「東部ドイツ自動車産業クラスター形成に関する予備的研究—旧東ドイツ自動車工業についての分析視座」山口大学『山口経済学雑誌』55巻6号。
- 2007(平19). 07 「東部ドイツ自動車産業クラスターの形成土壌：アイゼナーハ地域の自動車製造業史（1）」山口大学『山口経済学雑誌』56巻2号。
- 2007(平19). 09 「東部ドイツ自動車産業クラスターの形成土壌：アイゼナーハ地域の自動車製造業史（2）」山口大学『山口経済学雑誌』56巻3号。
- 2007(平19). 11 「東部ドイツ自動車産業クラスターの形成土壌：アイゼナーハ地域の自動車製造業史（3・完）」山口大学『山口経済学雑誌』56巻4号。
- 2008(平20). 01 「旧東ドイツ商用車製造コンビナートに関する若干の考察：東部ドイツ自動車産業クラスターの形成土壌を探る—コン

- ビナート基幹企業を中心に」山口大学『山口経済学雑誌』56巻5号。
- 2008(平20). 03 「ドイツ信託公社の誕生の軌跡に関する予備的考察—「ベルリンの壁」崩壊からドイツ再統一まで」山口大学『山口経済学雑誌』56巻6号。
- 2008(平20). 05 「ドイツ信託公社の誕生の軌跡—初期信託公社の設立と限界 (1)」山口大学『山口経済学雑誌』57巻1号。
- 2008(平20). 07 「ドイツ信託公社の誕生の軌跡—初期信託公社の設立と限界 (2)」山口大学『山口経済学雑誌』57巻2号。
- 2008(平20). 09 「ドイツ信託公社の誕生の軌跡—初期信託公社の設立と限界 (3・完)」山口大学『山口経済学雑誌』57巻3号。
- 2008(平20). 11 「ドイツ信託公社による民営化始動への序幕—東ドイツ最終政権の選択—」山口大学『山口経済学雑誌』57巻4号。
- 2009(平21). 01 「下関フグ卸売市場の『存在力』—伝統的地場産業の興隆条件と『地域ブランド戦略』に関する研究—」山口大学『山口経済学雑誌』57巻5号。
- 2009(平21). 03 「ドイツ信託公社による民営化の法的基礎—信託法に定める民営化」山口大学『山口経済学雑誌』57巻6号。
- 2009(平21). 05 「ドイツ信託公社による民営化の法的基礎—信託公社定款に定める民営化 (1) —」山口大学『山口経済学雑誌』58巻1号, 2009年5月, 165-175頁。
- 2009(平21). 07 「ドイツ信託公社による民営化の法的基礎—信託公社定款に定める民営化 (2) —」『山口経済学雑誌』第58巻第2号, 2009年7月, 83-96頁。
- 2012(平24). 06 「下関フグのブランド・エクイティ (Brand Equity) とビジネス環境変化への対応課題」, 西日本フク研究会編『西日本フク研究会20周年記念誌』同研究会発行, 2012年6月所収, 52-60頁。

【翻訳（論文）】

- 1994(平06). 11 「エッカールト・ザクセ『東西ドイツにおける経済的事情—将来的発展のための課題』」山口大学『山口経済学雑誌』42巻3・4号。
- 1994(平06). 05 「イリーナ・チョホツカヤ博士の講演会を開催して」：イリーナ・チホツカヤ「ロシアの新しい経済事情」山口大学『東亜経済研究』54巻1・2号。

【辞典・事典】

- 1988(昭63). 07 神戸大学経営学研究室編『経営学大辞典』（「フォルクスワーゲン」の項執筆） 中央経済社

【書評】

- 2001(平13). 00 「大島隆雄『ドイツ自動車工業成立史』」『社会経済史学』67巻2号。
- 2004(平16). 01 「黒瀬郁二『東洋拓殖会社—日本的帝国主義とアジア太平洋』（2003年3月）と山口大学経済学部附設『東亜経済研究所』所蔵史料」『山口経済学雑誌』52巻2号。
- 2000(平12). 03 「増田正勝著『キリスト教経営思想—近代経営体制とドイツ・カトリシズ』」『山口経済学雑誌』48巻2号。
- 2011(平23). 11 「栞田大知彦『ワイマール期ドイツ労働組合史：職業別から産業別へ』」『経営史学』第46巻第3号，83-85頁。

【口頭発表等（学会）】

- 1979(昭63). 05 「フォルクスワーゲン工場の成立過程」経営史学会関西部会5月例会（於，追手門大学）
- 1981(昭56). 11 1981年7月11日：「フォルクスワーゲン工場の成立過程」南九州商経学会（於，鹿児島経済大学）

- 1994(平06). 01 第21回富士コンファレンス (経営史国際会議) 討論者。
(於, 富士教育研修所)
- 1995(平07). 03 社会主義経営学会第20会大会, 「共通論題『体制転換と経営学』—日本的経営の可能性—」での討論者。
(於, 関西大学)
- 1996(平08). 10 「ドイツ自動車産業の対中国戦略の特徴—日本人の視点から」山東大学国際学術シンポジウム報告。
(於, 中国・山東大学)
- 2004(平16). 08 「欧州自動車産業の構造変化とポスト・リーン生産システムの展開—現地調査の成果から」第9回現代ドイツ企業研究会」。(於, 新日鐵代々木研修センター)
- 2004(平16). 12 「The Shifting of Production Capabilities of the Automobile Industry from Western to Central Europe and Germany's Position as a Business Location: The Case of the Automotive Components Industry」, in: International Symposium of the German Institute for Japanese Studies-DIJ, EU-Japan Centre for Industrial Cooperation and Industrial Investment Council-IIC: "Recent Developments in the Automotive Supplier Industry in Japan and the EU", Meiji University, Tokyo, 10th December 2004.
(於, 明治大学)
- 2007(平19). 03 「The Evolving Strategy of the European Automotive Company and the Post Lean Paradigm: on the Cases of VW Compared to Toyota」第12回現代ドイツ企業研究会山口大会
(於, 山口大学)
- 2008(平20). 06 「下関フグのブランド・エクイティ (Brand Equity) とビジネス環境変化への対応課題」, 平成20年度西日本フク研究会, 下関唐戸魚市場(株)南風泊活魚センター。

- 2010(平22). 05 「Automotive Industry Cluster: Hiroshima-Way」, EU Institute in Japan, Kansai (EUIJ-Kansai) 12th International Symposium: "The Automotive Supply Parts Industry in the Aftermath of the World Financial Crisis: European and Japanese Perspectives", venue: Kwansei Gakuin University, Osaka Umeda Campus, May 14, 2010 EU Institute in Japan, Kansai (EUIJ-Kansai) 12th International Symposium.
- 2015(平27). 12 「独インダストリー4.0の動向と自動車産業」(科学研究費基盤研究A, 助成研究中間報告, 課題番号26245047), 経済産業省九州経済産業局主催, 自動車関連研究報告会, 統一論題「『メガ・プラットフォーム戦略』と『ナノテク応用』～大きな潮流が自動車の生産・開発に与えるインパクト～」, 平成27年12月18日(金) 14:00~16:30, 於: 福岡国際会議場4階小会議室, (福岡市博多区石城町2-1)。

【文部科学省科学研究費補助金報告書】

- 1998(平10). 03 『ドイツ統一後に利用可能となった旧東ドイツ公文書館の自動車産業史関連史料の研究』研究代表者 古川澄明. — 山口大学経済学部, 1998. — (科学研究費補助金基盤研究(C) (2) 研究成果報告書; 平成7年度-平成9年度)。
- 2001(平13). 03 『中・東欧地域における自動車産業の「リーン・マネジメント」と「トランスプラント』』研究代者古川澄明. — [山口大学経済学部], 2001. — (科学研究費補助金基盤研究(C) (2) 研究成果報告書; 平成10年度-平成12年度)。
- 2004(平16). 03 『欧州自動車産業の構造変化とポスト・リーン生産システムの展開』研究代者 古川澄明. — [山口大学経済学部], 2004. — (科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))研究

成果報告；平成14年度 - 平成15年度)。

【その他の執筆】

2008(平20). 04 「東亜経済研究所の歴史」山口大学『East Asian Forum』
22号。

【文部科学省科学研究費補助金及びその他の補助金受給】

1990(平02) 「『ドイツ統一』に伴う東ドイツ企業の自由主義市場経済への
適応についての研究調査—行企業, 自動車製造企業, 陶磁器製
造企業を中心に—」松下国際財団1990年度(第1次)研究助
成金:(個人研究)

1993(平05) 「情報化社会における企業経営の変貌—情報化の進展と地域産
業の振興に関する学術的調査研究」山口大学平成5年度教育研
究特別経費(共同研究, 研究代表)

1994(平06) 「市場経済への転換過程下の中国企業改革に関する調査研究」
文部省科学研究費補助金(大学間協力研究):1994(平06)~
1996(平08)(共同研究, 研究協力者1995(平07)~1996(平08)
年度)

1995(平07) 「ドイツ統一後に利用可能となった旧東ドイツ公文書館の自動
車産業史関連資料の研究」文部省科学研究費補助金(一般研究
C(2)):1995(平07)~1997(平09)(個人研究)

1998(平10) 「中・東欧地域における自動車産業の『リーン・マネジメント』
と『トランスプラント』の研究」文部省科学研究費補助金(一
般研究C(2)):1998(平10)~2000(平12), (個人研究)

1998(平10) 「環黄海地域の産業展開と国際地域間経済協力に関する調査研
究—日・中・韓の自動車・電子産業を中心に—」文部省科
学研究費補助金(国際学術研究):1998(平10)~2000(平12)(共
同研究, 研究協力者)

- 2000(平12) 「EU及び東欧経済圏の自動車産業におけるリーン経営方式の展開とトランスプラント」日本学術振興会「日独科学協力事業」国際共同研究・研究助成金：2000(平12)～2002(平14) (研究代表者)。ドイツ側共同研究パートナー：エアランゲン・ニュルンベルク大学 (Universität Erlangen-Nürnberg, Germany) 自動車産業調査プロジェクト (研究テーマ：「Lean-Produktion als japanisches Exportprodukt - Die japanische Auseinandersetzung mit Entwicklungen der Produktions- und Arbeitspolitik in der europäischen Automobilindustrie vor dem Hintergrund der wirtschaftlichen Strukturveränderungen der 90er Jahre」), ドイツ学術振興協会 (DFG: Deutsche Forschungsgemeinschaft) の助成受給, 研究代表者, Prof. Dr.Gert Schmidt Universität Erlangen-Nürnberg, Institut für Soziologie der), Dr.Peter Ackermann (Universität Erlangen-Nürnberg, Institut für Außereuropäische Sprachen und Kulturen, Lehrstuhl für Japanologie)
- 2002(平14) 「ドイツ統一とTreuhandanstaltの歴史的役割に関する研究」山口大学経済学部学術振興基金研究助成 (個人研究)
- 2003(平14) 「欧州自動車産業の構造変化とポスト・リーン生産システムの展開」文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究B (1) 海外調査) (14402020) : 2003(平14)～2004(平15) (研究代表者)
- 2005(平15) 「中国水産養殖ビジネスの興隆と日本への影響に関する研究—養殖フグ・ビジネスを事例にして」山口大学経済学部学術振興基金研究助成 (個人研究)。
- 2007(平19) 「欧州自動車産業のトランスナショナル工場ネットワークと自動車産業クラスター：西日本自動車産業クラスターとの比較において」山口大学経済学部学術振興基金研究助成 (個人研究)
- 2007(平19) 図書刊行助成金：Sumiaki Furukawa, Gert Schmidt (ed.): *The*

Changing Structure of the Automotive Industry and the Post-Lean Paradigm in Europe: Comparisons with Asian Business Practices, Fukuoka: Kyushu University Press, (財) 山口大学教育研究後援財団平成19年度「学術研究成果の刊行に対する助成事業」助成金。

- 2007(平19) 山口大学研究主体教員：(2007(平19)～2011(平23)間) (個人研究)。
- 2009(平21) 「自動車メーカーのクロスボーダー工場ネットワーク戦略と産業クラスター」文部科学省科学研究費補助金 (2009(平21)～2012(平24)) 基盤研究 (C) (一般) (個人研究), 4,420千円 (直接経費：3,400千円, 間接経費 :1,020千円)。
- 2010(平22) 文部科学省科学研究費 (2010-2013年度間), 基盤研究 (C) (一般), 課題番号：22530447, 研究課題名「環境対応自動車の開発・製造に伴う部品取引システムの進化：中国・九州の越域的新連携」, 木村弘 (研究代表者, 宇部高等専門学校), 古川澄明 (研究分担者), 平成22年度直接経費800千円, 平成23年度直接経費900千円, 平成24年度直接経費700千円, 平成25年度直接経費700千円。
- 2010(平22) 財団法人中国電力技術研究財団, 平成22年度「産業振興に関する調査・研究助成」, 研究課題名「電気自動車の普及環境整備と充電サービス・インフラストラクチャーに関する調査」, 助成金額300千円。
- 2010(平22) 平成22年度経済学部教育・研究活動活性化経費助成 (山口大学平成22年度教育・研究活動活性化経費)「地場産業の競争力減衰原因と再興条件に関する研究—下関フグ卸売市場を事例として」, 助成金額500千円。
- 2011(平23) 平成23年度経済学部教育・研究活動活性化経費助成 (山口大学平成23年度教育・研究活動活性化経費)「地場産業の競争力減

- 衰原因と再興条件に関する研究—下関フグ卸売市場を事例として」、助成金額500千円。
- 2012(平24) 山口大学経済学部：学術振興基金助成：「伝統的地場産業の立地競争力と地域大学の役割—中国地域・東部ドイツの事例比較において」、研究期間：2012年4月—2013年3月，研究代表者・古川澄明，助成金300千円。
- 2014(平26) 山口大学経済学部学術振興基金平成26年度助成（共同研究）：研究課題名「地方観光産業振興活動の国際連携と大学の役割」、研究代表者：古川澄明，研究分担者・陳禮俊・助成金30万円。
- 2014(平26) 山口大学戦略的研究推進プログラム「平成26年度新呼び水プロジェクト」助成事業：研究課題名「東アジア歴史資料アーカイブ国際連携ネットワーク形成に関する研究」（研究代表者：古川澄明，研究分担者10名，助成金9,000千円）。
- 2014(平28) 文部科学省科学研究費：研究課題「日欧自動車メーカーの『メガ・プラットフォーム戦略』とサプライチェーンの変容」，研究種目・基盤研究（A），研究分野・経営学，研究機関・山口大学研究代表者・古川澄明（山口大学経済学部教授），研究期間（年度）：2014年4月1日～2017年3月31日採択，38,610千円（直接経費29,700千円，間接経費8,910千円）。
- 2014(平28) 文部科学省科学研究費：研究課題「フグ・ビジネスの海外市場開拓とアジア日系産業集積地の拡大：地域商業活性化への活路」，研究種目・挑戦的萌芽研究，研究分野・商学，研究機関・山口大学，研究代表者・古川澄明（山口大学経済学部教授），研究期間（年度）：2014年4月1日～2016年3月31日，3,510千円（直接経費21,700千円，間接経費810千円）。
- 2016(平28) 文部科学省科学研究費：研究課題「アジア和僑ビジネスと日本の地方農水産業：国際ロジスティックス・ネットワークの併呑」，研究種目・挑戦的萌芽研究，研究分野・商学，研究機関・山口

大学，研究代表者・古川澄明（山口大学経済学部教授），研究期間（年度）：2014年4月1日～2019年3月31日採択，3,250千円（直接経費2,500千円，間接経費150千円）。

【国外研修実績】

1982年7月1日～9月31日：短期私費国外研修：ドイツ連邦共和国（3ヶ月間），ダルムシュタット工科大学社会科学研究所滞在，西独企業 Daimler-Benz AG, Stuttgart, Volkswagen AG, Wolfsburg, Porsch AG, Stuttgart を視察。

1990年11月9日～1991年9月30日：海外研修：ドイツ民主共和国出張，ベルリン経済大学滞在。

1991年4月1日～1992年3月31日：日本学術振興会特定国派遣研究者：東ドイツ『『ドイツ統一』に伴う東ドイツ企業の市場経済への適応についての研究』：ドイツ連邦共和国，ベルリン経済大学，ベルリン自由大学東欧研究所。

1992年10月1日～1992年10月27日：海外研修：ベルリン自由大学東欧研究所。

1995年10月29日～1996年11月9日：海外出張：中華人民共和国及び香港。文部省科学研究費補助金（大学間協力研究）平成6年～平成8年「市場経済への転換過程下の中国企業改革に関する調査研究」（平成7，8年度参加）により，第2回現地調査のために，上海，広州，海口，香港へ出張する。

1996年3月28日～1996年9月26日：文部省「平成7年度海外研究開発動向調査等に係わる研究者の派遣」，調査テーマ「大欧州経済圏と自動車産業に関する研究」により，ドイツ連邦共和国，ベルリン自由大学東欧研究所へ出張，客員研究員として滞在する。また，この期間中，6月20日～7月5日間，連合王国，ロンドンのImperial War Museumへ史料調査のため出張する。

1996年10月28日～11月8日：海外出張：中華人民共和国及び香港。文部省科学研究費補助金（大学間協力研究）平成6年～平成8年「市場経済への転

換過程下の中国企業改革に関する調査研究」(平成7, 8年度参加)により, 第3回現地調査のために, 北京, 済南, 重慶, 上海へ出張する。この期間中, 10月30日~11月4日間, 済南の山東大学において, 当該テーマに関する学術シンポジウムに参加し, 報告する。

1998年9月21日~10月1日: 海外出張: 中華人民共和国及び大韓民国。文部省科学研究費補助金(国際学術研究—大学間協力研究)平成10年~平成12年「環黄海地域の産業展開と国際地域間経済協力に関する調査研究—日・中・韓の自動車・電子産業を中心にして」により, 第1回現地調査のために, 大連, 瀋陽, ソウル, 仁川へ出張する。

1999年10月10日~10月17日: 海外出張: 中華人民共和国及び大韓民国。文部省科学研究費補助金(国際学術研究—大学間協力研究)平成10年~平成12年「環黄海地域の産業展開と国際地域間経済協力に関する調査研究—日・中・韓の自動車・電子産業を中心にして」により, 第2回現地調査のために, 中国の長春, 上海へ出張する。

2000年12月1日~2001年2月22日及び2001年3月13日~2001年9月30日: 海外出張: ドイツ連邦共和国。文部省在外研究員としてドイツに派遣され, エアランゲン・ニュルンベルク大学社会学研究所 (Institut für Soziologie der Universität Erlangen-Nürnberg, Germany) 客員教授として滞在する。研究題目: 「欧州経済圏におけるドイツ自動車産業の新しい戦略的展開に関する研究」。

2001年2月23日~2001年3月12日: ドイツ学術振興協会 (DFG: Deutsche Forschungsgemeinschaft) の助成により, エアランゲン・ニュルンベルク大学社会学研究所 (Institut für Soziologie der Universität Erlangen-Nürnberg, Germany) 客員教授として, 同研究所自動車産業調査プロジェクト (研究テーマ: 「Lean-Produktion als japanisches Exportprodukt - Die japanische Auseinandersetzung mit Entwicklungen der Produktions- und Arbeitspolitik in der europäischen Automobilindustrie vor dem Hintergrund der wirtschaftlichen Strukturveränderungen der 90er Jahre」)

の日本自動車産業調査に加わり、調査・インタビューに従事する。なお、同プロジェクトは、日本側プロジェクト（研究代表者：古川澄明，研究テーマ：「EU及び東欧経済圏の自動車産業におけるリーン経営方式の展開とトランスプラント」）との共同研究を実施した。日本側プロジェクトは、日本学術振興会（JSPS）とドイツ学術振興協会（DFG: Deutsche Forschungsgemeinschaft）の間で協定されている「日独科学協力事業」に基づいて、日本学術振興会の2000年～2001年（平成12年～平成13年）度の研究助成を受けた。

2001年3月17日～2001年3月30日：訪欧調査：チェコ，ドイツ，対象：自動車産業，日本学術振興協会JSPS-ドイツ学術振興協会DFG助成の日独共同研究プロジェクト（平成12-13年度），研究代表者：古川澄明（山口大学），研究分担者：風間信隆（明治大学），山代研一（淑徳大学），畑隆（富士常葉大学），マルク・レール（山口大学），Prof.Gert Schmidt（Erlanger University, Germany），Prof. Peter Ackermann（同），Holger Bungsche（同），Thilo Heyder（同）。

2001年10月20日～2001年11月11日：欧州自動車産業調査：イギリス，チェコ，ドイツ，対象：自動車産業。日本学術振興協会JSPS-ドイツ学術振興協会DFG助成の日独共同研究プロジェクト（平成12-13年度），研究代表者：古川澄明（山口大学），研究分担者：風間信隆（明治大学），山代研一（淑徳大学），畑隆（富士常葉大学），マルク・レール（山口大学），Prof.Gert Schmidt（Erlanger University, Germany），Prof. Peter Ackermann（同），Holger Bungsche（同），Thilo Heyder（同）。2002年3月24日～2002年3月31日：欧州自動車産業調査，イギリス，スペイン，チェコ，ドイツ，対象：自動車産業。日本学術振興協会JSPS-ドイツ学術振興協会DFG助成の日独共同研究プロジェクト（平成12-13年度），研究代表者：古川澄明（山口大学），研究分担者：風間信隆（明治大学），山代研一（淑徳大学），畑隆（富士常葉大学），マルク・レール（山口大学），Prof.Gert Schmidt（Erlanger University, Germany），Prof. Peter Ackermann（同），Holger

Bungsche (同), Thilo Heyder (同)。

2003年3月21日～2003年3月31日：欧州自動車産業調査：イギリス，フランス，スペイン，チェコ，ドイツ，対象：自動車産業。日本学術振興協会日独共同研究プロジェクト(平成12-13年度)，研究代表者：古川澄明(山口大学)，研究分担者：風間信隆(明治大学)，山代研一(淑徳大学)，畑隆(富士常葉大学)，マルク・レール(山口大学)，Gert Schmidt(Erlanger University, Germany)，Peter Ackermann(同)，Holger Bungsche(同)，Thilo Heyder(同)。

2004年3月21日～2004年3月31日：欧州自動車産業調査：イギリス，フランス，ポーランド，ドイツ，ハンガリー，スロバキア，オーストリア，ベルギー，対象：自動車産業。文部科学省科学研究費補助金平成14-15年度プロジェクト，研究代表者：古川澄明(山口大学)，研究分担者：風間信隆(明治大学)，山代研一(淑徳大学)，畑隆(富士常葉大学)。

2004年8月17日～2004年9月1日：文部科学省科学研究費補助金平成14-15年度プロジェクトによる欧州自動車産業調査，フランス，ポーランド，ドイツ，ハンガリー，オーストリア，ベルギー，対象：自動車産業，研究代表者：古川澄明(山口大学)，研究分担者：風間信隆(明治大学)，山代研一(淑徳大学)，畑隆(富士常葉大学)。

2004年9月20日～2004年10月3日：欧州自動車産業調査：フランス，ベルギー，ドイツ，ハンガリー，オーストリア，対象：自動車産業，文部科学省科学研究費補助金平成14-15年度プロジェクト，研究代表者：古川澄明(山口大学)，研究分担者：風間信隆(明治大学)，山代研一(淑徳大学)，畑隆(富士常葉大学)。

2005年7月21日～2005年7月23日：訪中第5回「日中韓養殖フグ・シンポジウム」参加：日本，中国，韓国のフグ業界によって開催された第5回「日中韓養殖フグ・シンポジウム」(中国大連庄河市)及び，それに関連して中国養殖フグ事業および日韓フグ・ビジネス業界に関する収集情報を実施する。なおシンポジウムは中国側の大連市海洋漁業局および大連庄河口市

役所によって主催され、協力者である大連富谷水産有限会社と大連天正実業有限会社によって組織された。その他の協力者として、日本側から下関唐戸魚市場株式会社と富洋通商株式会社、また韓国側から韓国松原河豚料理店が参画した。助成：山口大学経済学部学術振興基金から旅費助成を受けた。

2009年9月14日～10月2日：ドイツ・フランスの自動車産業クラスター調査：文部科学省科学研究費補助金（2009～2012年度間）、基盤研究（C）（一般）、課題番号：21530388、研究課題名「自動車メーカーのクロスボーダー工場ネットワーク戦略と産業クラスター」、2009年度調査実施。本調査は、9月14日～9月25日間、経済産業省中国経済産業局・広島産業振興機構・広島県が共同実施した「中国地域自動車クラスター・欧州自動車産業調査プロジェクト」と連携して実施した。

2010年11月7日～11月17日：インド・タイ自動車産業調査：文部科学省科学研究費補助金受給（2010～2013年度間）、基盤研究（C）（一般）、課題番号：22530447、研究課題名「環境対応自動車の開発・製造に伴う部品取引システムの進化：中国・九州の越域的新連携」（木村弘：研究代表者、宇部高等専門学校、古川澄明：研究分担者）の研究の一環として、本調査を実施した。本調査は、2010年11月7日～11月17日間、経済産業省中国経済産業局・広島産業振興機構・広島県・広島銀行経済研究所が共同実施した「中国地域自動車クラスター、インド・タイ事項者産業調査プロジェクト」と連携して、実施した。

2011年12月6日～12月13日：中国・韓国自動車産業調査：文部科学省科学研究費補助金受給（2010～2013年度間）、基盤研究（C）（一般）、課題番号：22530447、研究課題名「環境対応自動車の開発・製造に伴う部品取引システムの進化：中国・九州の越域的新連携」（木村弘：研究代表者、宇部高等専門学校、古川澄明：研究分担者）の研究の一環として、本調査を実施した。本調査は、2011年12月6日～12月13日間、経済産業省中国経済産業局・広島産業振興機構・広島県・広島銀行経済研究所が共同実施した「中

国地域自動車クラスター、中国・韓国自動車産業調査プロジェクト」と連携して、実施した。

2012年3月10日～3月31日：ドイツ自動車産業クラスター調査：文部科学省科学研究費補助金（2009～2012年度間），基盤研究（C）（一般），課題番号：21530388，研究課題名「自動車メーカーのクロスボーダー工場ネットワーク戦略と産業クラスター」，2011年度調査を東部ドイツのベルリン，ドレスデン，ライプティッヒ，デュッセルドルフ地域において実施した。本調査は，経済産業省中国経済産業局・広島産業振興機構が推進している「中国地域自動車クラスター」事業と連携して研究を進めた。

2012年3月10日～3月31日：ドイツ自動車産業クラスター調査：文部科学省科学研究費補助金（2009～2012年度間），基盤研究（C）（一般），課題番号：21530388，研究課題名「自動車メーカーのクロスボーダー工場ネットワーク戦略と産業クラスター」，2011年度調査を東部ドイツのベルリン，ドレスデン，ライプティッヒ，デュッセルドルフ地域において実施した。本調査は，経済産業省中国経済産業局・広島産業振興機構が推進している「中国地域自動車クラスター」事業と連携して研究を進めている。

2009年9月14日～10月2日：ドイツ・フランスの自動車産業クラスター調査：文部科学省科学研究費補助金（2009～2012年度間），基盤研究（C）（一般），課題番号：21530388，研究課題名「自動車メーカーのクロスボーダー工場ネットワーク戦略と産業クラスター」，2009年度調査実施。本調査は，9月14日～9月25日間，経済産業省中国経済産業局・広島産業振興機構・広島県が共同実施した「中国地域自動車クラスター・欧州自動車産業調査プロジェクト」と連携して実施した。

2010年11月7日～11月17日：インド・タイ自動車産業調査：文部科学省科学研究費補助金受給（2010～2013年度間），基盤研究（C）（一般），課題番号：22530447，研究課題名「環境対応自動車の開発・製造に伴う部品取引システムの進化：中国・九州の越域的新連携」（木村弘：研究代表者，宇部高等専門学校，古川澄明：研究分担者）の研究の一環として，本調査を実施

した。本調査は、2010年11月7日～11月17日間、経済産業省中国経済産業局・広島産業振興機構・広島県・広島銀行経済研究所が共同実施した「中国地域自動車クラスター、インド・タイ事項者産業調査プロジェクト」と連携して、実施した。

2011年12月6日～12月13日：中国・韓国自動車産業調査：文部科学省科学研究費補助金受給（2010-2013年度間）、基盤研究（C）（一般）、課題番号：22530447、研究課題名「環境対応自動車の開発・製造に伴う部品取引システムの進化：中国・九州の越域的新連携」（木村弘：研究代表者、宇部高等専門学校、古川澄明：研究分担者）の研究の一環として、本調査を実施した。本調査は、2011年12月6日～12月13日間、経済産業省中国経済産業局・広島産業振興機構・広島県・広島銀行経済研究所が共同実施した「中国地域自動車クラスター、中国・韓国自動車産業調査プロジェクト」と連携して、実施した。

2012年3月10日～3月31日：ドイツ自動車産業クラスター調査：文部科学省科学研究費補助金（2009-2012年度間）、基盤研究（C）（一般）、課題番号：21530388、研究課題名「自動車メーカーのクロスボーダー工場ネットワーク戦略と産業クラスター」、2011年度調査を東部ドイツのベルリン、ドレスデン、ライプティッヒ、デュッセルドルフ地域において実施した。本調査は、経済産業省中国経済産業局・広島産業振興機構が推進している「中国地域自動車クラスター」事業と連携して研究を進めている。

2012(平24)年10月21日-10月31日間：人間医工学を応用した次世代自動車技術開発動向等に関する欧州現地調査（ドイツ・オーストリア）：文部科学省科学研究費補助金（2009-2012年度間）、基盤研究（C）（一般）、課題番号：21530388、研究課題名「自動車メーカーのクロスボーダー工場ネットワーク戦略と産業クラスター」、2012年度調査をドイツ・オーストリアにおいて実施した。このドイツ、オーストリア自動車産業関連調査は、2012年度・経済産業省・地域新成長産業群創出事業（中国地域自動車クラスター事業）「欧州現地調査の実施案（医工連携分野の先進地技術交流事

業)」により、ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車、電気自動車技術全般と、電磁波が人体へ影響を及ぼすリスクと防護技術についての情報交換・技術交流、人間医工学を応用した、安全・快適な自動車技術の情報交換・技術交流、等々の目的で、連携して、欧州調査を実施したものである。本調査は、地域貢献としては、「中国地域自動車産業クラスター」がこれまでに欧州自動車産業クラスター等との間で構築してきたネットワークを活かして、欧州の自動車メーカー・サプライヤー・大学等研究機関・産業支援機関などにおける、「人間医工学を応用した次世代自動車技術開発動向等に関する情報」（「ハイブリッド車、プラグインハイブリッド車、電気自動車技術全般と、電磁波が人体へ影響を及ぼすリスクと防護技術についての情報交換・技術交流」。「人間医工学を応用した、安全・快適な自動車技術の情報交換・技術交流」）や、「産学連携・産業支援のあり方について情報」を収集し、その情報を中国地域に還元して、当地域での自動車関連技術の開発・発展を加速させることを目的とした。同時に、学術的目的は、産業クラスターの機能と役割に関する研究を進めることにあった。（括弧内はひろぎん経済研究所同調査企画案から引用）。

2013年3月10日～3月31日：カンボジア産業調査：文部科学省科学研究費補助金（2009～2012年度間）、基盤研究（C）（一般）、課題番号：21530388、研究課題名「自動車メーカーのクロスボーダー工場ネットワーク戦略と産業クラスター」、2012年度調査を、ドイツとの比較のため、カンボジア工業団地に対して、実施した。

2013年9月21日～9月29日：インドネシア・マレーシア自動車産業調査：文部科学省科学研究費補助金（2009～2012年度間）、基盤研究（C）（一般）、課題番号：21530388、研究課題名「自動車メーカーのクロスボーダー工場ネットワーク戦略と産業クラスター」研究の延長線上において、経済産業省中国経済産業局「インドネシア・マレーシア自動車産業調査ミッション」に参加する形で、校費により、連携調査を実施した。経済産業局は、中国地域自動車部品サプライヤー海外展開を支援するための現地調査ミッショ

ンを組織し、実際上のツアー計画と実施については、一般財団法人ひろぎん経済研究所が受託した。本調査は、主として、インドネシア・マレーシアに進出している日系自動車メーカー及び部品メーカー、さらに現地民族資本系自動車及び部品メーカー、シンクタンク、JETRO、現地政府産業振興行政機関等をヒアリングの対象とした。

2014年1月7日～1月19日：ドイツ・ベルギー自動車産業調査：機械振興会経済研究所研究者と連携協力して、ドイツ及びベルギーにおいて、日系自動車及び部品メーカー、JETRO、AUTOSAR、JAMA欧州支部（JAMA EUROPE CLEPA）、the European Association of Automotive Suppliersなどに対するヒアリングを実施し、次世代自動車開発等への新動向を調査した。

2014年9月17日～9月24日：アセアン自動車産業調査（タイ・インドネシア・マレーシア）：科学研究費基盤研究A「日欧自動車メーカーの『メガ・プラットフォーム戦略』とサプライチェーンの変容」（研究課題番号：26245047、研究期間：平成26年～28年間）研究課題において、研究代表者として研究分担者7名及び研究協力者2名からなる調査ミッションを組織し、タイ・インドネシア・マレーシアにおいて、日系及び現地自動車・部品メーカー、JETRO、現地政府自動車産業所管部門などを調査した。焦点は、日系企業のグローバル事業展開におけるアセアン生産拠点の役割、生産の海外シフト、グローバル部品調達におけるアセアン拠点の位置づけなどであった。

2014年10月5日～10月16日：欧州自動車産業調査（ドイツ・ベルギー・オーストリア）：科学研究費基盤研究Aの研究課題において研究分担者2名からなる調査ミッションを組織し、視察とヒアリングを実施した。主として、BMW Munich工場のモジュール化現場視察、Duisburg- Essen大学の自動車産業研究者Roman Bartnik氏との研究ミーティング、Faurecia Hagenbach R&D Center（Hagenbach, BRD）、Audi Forum（Ingolstadt）及びFaurecia Ingolstadt工場視察・意見交換、The International

Automotive Congress ASEAN (Wolfsburg), Forum Auto Vision of Wolfsburg AG (Wolfsburg) への参加などを実施した。調査目的は、モジュール化戦略動向を自動車及び部品メーカーとの視察・意見交換を介して把握すること、さらにVW本社所在地のWolfsburg市が主催したドイツ自動車産業のアセアン進出に関する国際会議への参加と、同時開催の自動車部品メッセへの参加によるモジュール化実態及び次世代自動車部品開発動向の把握であった。

2015年3月7日～3月22日：欧州自動車産業調査（ドイツ・オーストリア）：科学研究費基盤研究Aの研究課題において研究分担者3名からなる調査ミッションを組織し、ヒアリングを実施した。調査先と目的は、VW Wolfsburg工場見学、BROSE (Wolfsburg) 訪問、ジュネーブモーターショー視察、Audi Ingolstadt工場視察、AVL (Regensburg) 意見交換、Bosch Stuttgart で意見交換であった。

2015年9月16日～9月28日：欧州自動車産業調査（ドイツ・ベルギー・イギリス）：科学研究費基盤研究Aの研究課題において研究代表者として研究分担者3名及び研究協力者1名からなる調査ミッションを組織し、ヒアリングを実施した。調査先は、Daimler AG (Stuttgart), フランクフルト国際モーターショー, JETROブリュッセル, 欧州委員会 (Transport & Environment Brussels), Calsonic Kansei Europe plc. (UK) 河西工業 (UK) 等々であった。調査目的は、次世代自動車開発動向とくに48Vシステムによるマイルドハイブリッドシステムの開発動向, モジュール化戦略動向, 自動車部品メーカーのグローバル戦略展開などであった。

2015年10月7日～10月16日：アセアン生鮮魚市場調査（シンガポール・マレーシア）：2014(平28) 文部科学省科学研究費：研究課題「フグ・ビジネスの海外市場開拓とアジア日系産業集積地の拡大：地域商業活性化への活路」（研究種目・挑戦的萌芽研究, 研究分野・商学, 研究機関・山口大学, 研究代表者・古川 澄明・山口大学経済学部教授, 研究期間：2014年4月1日～2016年3月31日）の研究課題において、3名の業界関係者を研究協

力者にして、シンガポール・マレーシアの日系・現地資本系生鮮魚（トラフグ）及び調理資材輸入業者、さらにフグ料理店（和食・中華）をヒアリングし、市場開拓の実情及び問題点などの解明を行う調査を実施した。

2016年2月21日～2月25日：アセアン生鮮魚市場調査（シンガポール）、文部科学省科学研究費：研究課題「フグ・ビジネスの海外市場開拓とアジア日系産業集積地の拡大：地域商業活性化への活路」（前掲）の研究課題において、2015年10月シンガポール・マレーシア調査に引き続いて、再度、単独で、シンガポールでのヒアリング調査を実施した。現地の日系メディア、輸入業者をヒアリングし、シンガポールでのフグ消費市場の可能性を探った。またシンガポール政府厚生衛生当局（AVA）へのヒアリングを試みたが、成功しなかった。